

2018年9月20日

¹公益財団法人 東京都医学総合研究所

²公益財団法人 復康会 沼津中央病院

³公益財団法人 復康会 あたみ中央クリニック

⁴国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
奥村泰之¹ⁱ、杉山直也²、野田寿恵³、立森久照⁴

精神病床への新規入院患者における在院日数に関する研究

1. 背景

厚生労働省は、2004年の「精神保健福祉の改革ビジョン」より、「入院医療中心から地域生活中心へ」の基本理念の下、施策を進めてきましたⁱⁱ。さらに、その10年後、厚生労働省は、新たに入院する精神障害者は、原則1年未満で退院する体制を確保すること等を記載した、指針を策定しましたⁱⁱⁱ。

精神科医療に携わる臨床家や政策立案者にとって、新たに入院した精神障害者が、どのように医療資源を消費しているかを正確に理解することは重要です。これまで、精神病床への新規入院患者における在院日数を調べた全国規模の調査は、精神保健福祉資料（通称、630調査）に限られていました。しかし、630調査の研究法は、①通年ではなく6月に新規入院した患者に限定されていること、②病院が調査協力しないことの影響を受けること、③在院日数の定義が入院から地域に退院するまでの日数になっていないこと（つまり、転院状況が考慮されていない）、など限界がありました。

2. 研究方法

厚生労働省が構築している、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を活用して分析しました^{iv}。組み入れ期間（2014年4月から2016年3月）に、精神病床へ新たに入院した605,982患者について、入院から地域に退院するまでの日数を評価しました^v。

ⁱ 2017年度に、医療経済研究機構において実施した研究です。

ⁱⁱ 精神保健医療福祉の改革ビジョン (<https://www.mhlw.go.jp/topics/2004/09/dl/tp0902-1a.pdf>)

ⁱⁱⁱ 良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針

(https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougai-shahukushi/kaisei_seisin/dl/kokuji_anbun_h26_01.pdf)

^{iv} 厚生労働省は、審査支払機関が保有する全保険医療機関からの電子レセプト等の提供を求め、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を構築しています。

^v 精神病床から地域へ退院するイベントに競合するものとして、「一般病床への転棟・転院」と「精神病床における院内死亡」を考慮しました。また、2016年9月30日あるいは在院から365日経過時点を打ち切りとしました。

3. 研究結果のポイント

3.1. 患者レベルの退院率

- 患者全体における、90日以内の退院率は64.1%、360日以内の退院率は85.7%でした(図1)。

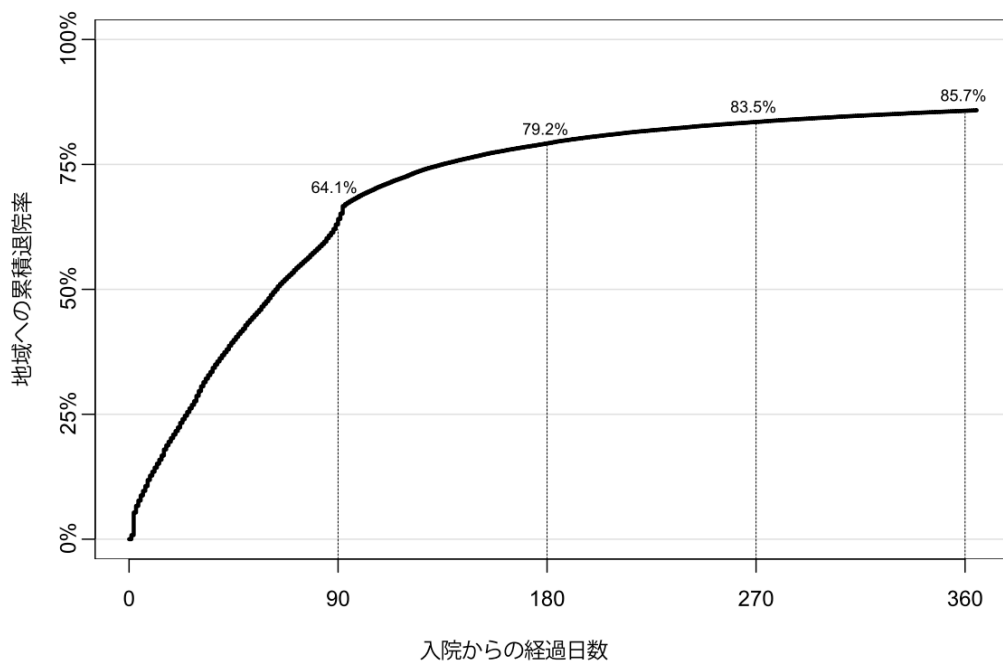


図1: 患者全体における累積退院率

- 退院率は入院料の種別によって、大きく異なっていました。例えば、360日以内の退院率は、特定機能病院精神病棟7:1入院基本料では98.7%である一方、認知症治療病棟入院料では68.0%でした(表1)。
- 精神科救急入院料と精神科急性期治療病棟入院料では、在院から90日付近で急速に退院率が上昇し、その後、緩やかに退院率が上昇していくという2つのトレンドが確認されました(図2)。

表 1: 入院料種別の累積退院率 (患者レベル)

入院日の入院料種別	患者数	入院からの経過日数ごとの累積退院率 (%)			
		90日	180日	270日	360日
入院基本料 (出来高病棟)					
精神病棟 10: 1 入院基本料	11,119	86.2	92.2	93.7	94.3
精神病棟 13: 1 入院基本料	30,721	74.3	88.2	91.4	92.7
精神病棟 15: 1 入院基本料	237,973	57.2	73.5	78.7	81.4
精神病棟 18: 1 入院基本料	9,416	53.8	67.8	73.5	76.2
精神病棟 20: 1 入院基本料	2,485	52.0	72.7	79.1	81.8
精神病棟特別入院基本料	2,183	47.9	65.6	71.1	74.4
特定機能病院の入院基本料 (出来高病棟)					
精神病棟 7: 1 入院基本料	4,355	93.8	97.5	98.4	98.7
精神病棟 10: 1 入院基本料	7,576	90.6	96.5	97.8	98.1
精神病棟 13: 1 入院基本料	12,668	79.8	93.7	96.2	97.1
精神病棟 15: 1 入院基本料	3,839	75.9	91.6	95.2	96.9
特定入院料 (包括病棟)					
精神科救急入院料	69,697	79.2	92.5	94.9	96.0
精神科急性期治療病棟入院料	115,089	75.1	91.0	93.7	94.8
精神科救急・合併症入院料	3,034	80.2	92.1	94.8	95.7
児童・思春期精神科入院医療管理料	4,388	59.9	84.6	92.6	95.9
精神療養病棟入院料	47,763	52.2	65.6	70.9	74.1
認知症治療病棟入院料	43,676	38.3	55.7	63.4	68.0

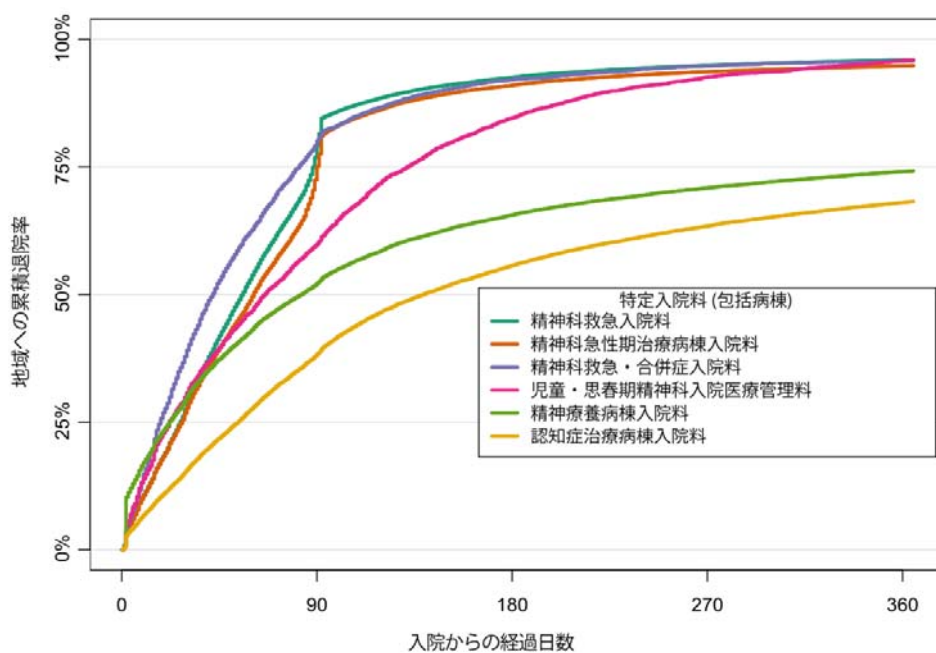


図 2: 特定入院料 (包括病棟) における累積退院率

3.2. 病院レベルの退院率 (表 2)

- 入院料種別の 90 日以内退院率は、病院ごとに大きく異なっていました。例えば、精神科救急入院料の 90 日以内退院率によって 131 病院を 5 群に分類すると、最下位の病院群における退院率は 46.0%~75.3%であるのに対し、最上位の病院群における退院率は 83.6%~96.0%でした。
- 同様に、認知症治療病棟入院料の 90 日以内退院率によって 486 病院を 5 群に分類すると、最下位の病院群における退院率は 0.0%~23.4%であるのに対し、最上位の病院群における退院率は 47.7%~87.7%でした。

表 2: 病院・入院料種別の 90 日以内退院率

入院日の入院料種別	病院数	退院率の 5 病院群 / 3 病院群 (範囲, %)				
		1st (最下位)	2nd	3rd	4th	5th (最上位)
入院基本料 (出来高病棟)						
精神病棟 10: 1 入院基本料	23	69.9-77.6	77.7-81.1	81.2-87.6	87.7-91.0	91.1-99.5
精神病棟 13: 1 入院基本料	95	39.4-66.0	66.1-73.9	74.0-78.3	78.4-83.3	83.4-96.0
精神病棟 15: 1 入院基本料	1,250	3.6-42.4	42.5-51.1	51.2-58.3	58.4-66.3	66.4-100.0
精神病棟 18: 1 入院基本料	68	10.0-34.1	34.2-45.3	45.4-56.6	56.7-64.4	64.5-80.0
精神病棟 20: 1 入院基本料	18	20.7-35.6	—	35.7-51.0	—	51.1-78.0
精神病棟特別入院基本料	30	0.0-33.9	34.0-46.6	46.7-56.0	56.1-61.2	61.3-85.4
特定機能病院の入院基本料 (出来高病棟)						
精神病棟 7: 1 入院基本料	10	87.4-91.5	—	91.6-94.6	—	94.7-97.0
精神病棟 10: 1 入院基本料	15	82.4-89.9	—	90.0-92.9	—	93.0-97.0
精神病棟 13: 1 入院基本料	40	68.7-72.6	72.7-77.6	77.7-80.7	80.8-85.0	85.1-91.0
精神病棟 15: 1 入院基本料	19	60.4-70.4	—	70.5-77.8	—	77.9-90.0
特定入院料 (包括病棟)						
精神科救急入院料	131	46.0-75.3	75.4-77.9	78.0-80.8	80.9-83.5	83.6-96.0
精神科急性期治療病棟入院料	369	42.8-67.8	67.9-73.1	73.2-77.8	77.9-81.2	81.3-95.9
精神科救急・合併症入院料	11	68.3-79.2	—	79.3-82.8	—	82.9-92.0
児童・思春期精神科入院医療管理料	35	31.6-42.5	42.6-52.1	52.2-61.4	61.5-72.6	72.7-84.2
精神療養病棟入院料	724	0.0-25.6	25.7-39.9	40.0-49.9	50.0-60.7	60.8-94.8
認知症治療病棟入院料	486	0.0-23.4	23.5-32.2	32.3-38.6	38.7-47.6	47.7-87.7

注) 当該入院料の患者数が 10 人以上の病院に限定して集計しています。当該入院料の病院数が 20 以上の場合は退院率を基に 5 群に、20 未満の場合は退院率を基に 3 群に分類しています。

3.3. 都道府県レベルの退院率 (表 3)

- 都道府県ごとに 360 日以内の退院率は異なっていました。例えば、退院率が最も高い地域は東京都の 90.5%であり、退院率が最も低い地域は山口県の 78.0%でした。

表 3: 都道府県ごとの 360 日以内退院率

都道府県	退院率 (%)	順位	都道府県	退院率 (%)	順位	都道府県	退院率 (%)	順位
北海道	84.8	29	石川県	87.5	9	岡山県	86.1	17
青森県	87.9	7	福井県	87.3	11	広島県	83.0	40
岩手県	85.4	25	山梨県	88.6	4	山口県	78.0	47
宮城県	84.1	34	長野県	87.4	10	徳島県	85.5	23
秋田県	85.2	27	岐阜県	87.3	12	香川県	82.3	42
山形県	86.2	16	静岡県	88.4	5	愛媛県	85.0	28
福島県	84.8	31	愛知県	89.2	2	高知県	87.0	13
茨城県	83.4	39	三重県	85.8	20	福岡県	84.2	33
栃木県	86.0	18	滋賀県	85.6	21	佐賀県	83.8	36
群馬県	85.2	26	京都府	83.8	35	長崎県	82.0	43
埼玉県	83.7	37	大阪府	87.8	8	熊本県	85.6	22
千葉県	86.7	14	兵庫県	85.9	19	大分県	80.9	44
東京都	90.5	1	奈良県	86.5	15	宮崎県	79.6	46
神奈川県	88.0	6	和歌山県	88.8	3	鹿児島県	79.9	45
新潟県	82.9	41	鳥取県	84.8	30	沖縄県	85.5	24
富山県	84.2	32	島根県	83.4	38			

4. 本研究から得られる示唆

- 本研究では、NDB を活用することにより、精神病床へ新たに入院した患者における、入院料種別の累積退院率や病院レベルの退院率が初めて明らかになりました。
- 本研究成果により、精緻で多面的な実態把握が可能となり、その結果、政策担当者が、より実効性の高い施策立案をすることに繋がると期待されます。加えて、本研究成果は、臨床家が全国における自施設の退院率を理解し、より現実的な目標設定をすることに活用できると期待されます。

5. 本研究の限界

- 本研究結果は、精神病床入院患者の 20%程度を占める生活保護受給者が含まれていないため、一般化可能性には留意が必要です。

書誌情報

書誌情報	
著者名：	奥村泰之 (医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部/公益財団法人東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野) 杉山直也 (復康会 沼津中央病院) 野田寿恵 (復康会 あたみ中央クリニック) 立森久照 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)
標題：	Psychiatric admissions and length of stay during fiscal years 2014 and 2015 in Japan: a retrospective cohort study using a nationwide claims database.
雑誌名：	Journal of Epidemiology. in press.
DOI：	https://doi.org/10.2188/jea.JE20180096

以上